

## 助動詞 総合確認テスト（接続で見分ける） 解答・解説

### ■ 解答・解説

問1 (1) る（受身・尊敬・自発・可能の助動詞「る」の連体形が「るる」）。(2) 受身（「花が散らされるのを」の意で、自然に散る様子をやや受身的に表す。自発ととる立場もある）。(3) 未然形。——「る・らる」は未然形接続。四段動詞「散る」の未然形は「散ら」。直前が未然形なら「る・らる・す・さす・しむ・ず…」の仲間だと見当をつけられる。

問2 「けり」＝過去（詠嘆ととる場合もあるが、ここは「～た」の過去でよい）。「けり」は連用形接続なので、上一段動詞「見る」の連用形「見」に付いている。

問3 「けれ」は形容詞「明かし」の已然形活用語尾（「明かし」→已然形「明かけれ」）の一部であって、過去の助動詞「けり」ではない。已然形＋「ば」で「～ので」を表す。形が似ていても、上が形容詞の活用語尾なら助動詞「けり」ではない、と見抜くことが大切。

問4 「せ」＝尊敬（使役の助動詞「す」だが、ここは下に尊敬語「たまふ」が続くので尊敬の意。いわゆる「せたまふ」の二重尊敬）。「す」は未然形接続で、四段動詞「遊ぶ」の未然形「遊ば」に付く。

問5 「たり」＝存続（～ている）。完了ととれる場合もあるが、「座っている」状態を表すので存続が自然。「たり」は連用形接続で、上一段動詞「居る」の連用形「居」に付いている。

問6 (1) ぬ。(2) 完了（～てしまう・～た）。(3) 連用形。——完了「ぬ」は連用形接続。四段動詞「なる」の連用形「なり」に付いている。「ぬれ」は「ぬ」の已然形で、下の「ば」と結びついて「～たので」の意。

問7 「す」＝使役（～させる）。「文を習わせる」の意。下に尊敬語がないので、ここは尊敬ではなく使役。「す」は未然形接続で「習は」（四段「習ふ」の未然形）に付く。

問8 「らむ」＝現在推量（今ごろ～ているだろう）。目の前にない事柄を推量する。「らむ」は終止形接続で、四段動詞「降る」の終止形「降る」に付いている。

問9 「まし」＝反実仮想（もし～だったら～だろうに、の意を含む。ここでは「（もし都にいれば）さぞ寒いだろうに」というためらい・想像）。「まし」は未然形接続で、形容詞「寒し」の未然形「寒から」に付く。

問10 「らむ」の上の語の形（接続）を見ればよい。現在推量「らむ」は終止形接続なので、上が終止形「降る」なら現在推量。一方「降れらむ」の「らむ」は、完了・存続の助動詞「り」の未然形「ら」＋推量「む」で、「り」は四段已然形・サ変未然形に接続するため、上は已然形「降れ」になる。つまり直前が終止形か已然形かという接続の違いで、一語の「らむ」か「り＋む」かを区別できる。

問11 同じ（どちらも上は連用形）。「捨てて」の「て」は完了の助動詞「つ」の連用形で、連用形接続。下二段動詞「捨つ」の連用形「捨て」に付くので「捨て」は連用形。「ありけり」の「けり」も連用形接続で、ラ変動詞「あり」の連用形「あり」に付くので「あり」も連用形。動詞の活用の種類（下二段とラ変）は違うが、「て」と「けり」が求める接続はどちらも連用形で同じ、と整理する。

**問12** 「れ」＝自発（自然と～される。「(秋が来た) 風の音にはっと気づかされる」の意)。受身・可能ととる立場もあるが、心情・知覚を表すので自発が自然。「る」は未然形接続で、四段動詞「驚く」の未然形「驚か」に付く。ここの「れ」は連用形（下に「て」が続く）。

---

**問13** (1) 「ぬ」＝完了の助動詞「ぬ」（終止形「ぬ」）。意味は「～てしまった・～た」。「秋来ぬ」は「秋が来てしまった（来た）」。(2) 「ぬ」＝打消の助動詞「ず」の連体形「ぬ」。意味は「～ない」。「咲かぬほど」は「(まだ) 咲かないころ」。(3) 決め手は接続。完了「ぬ」は連用形に付き、打消「ず」（連体形「ぬ」）は未然形に付く。「来（く）」なら連用形は「来（き）」、未然形は「来（こ）」だが、「秋来ぬ」は「来た」の意なので連用形「来（き）」＋完了「ぬ」。一方「咲かぬ」は四段「咲く」の未然形「咲か」＋打消「ぬ」。つまり直前が連用形なら完了、未然形なら打消、と接続で見分ける。

---

**問14** 「まじ」＝不可能・打消推量（ここは「とても住めそうにない・住めまい」の意。上に「え」があるので不可能のニュアンスが強い）。「まじ」は終止形接続で、四段動詞「住む」の終止形「住む」に付く。

---

**問15** 「らし」＝推定（確かな根拠にもとづいて「～らしい・～にちがいない」と推し量る）。「らし」は終止形接続。ここでは完了の助動詞「ぬ」の終止形「ぬ」に付いて「解けぬらし（＝解けてしまったらしい）」となる。よって直前の「解けぬ」の「ぬ」は完了の助動詞（下二段「解く」の連用形「解け」＋完了「ぬ」）。

---

**問16** 形容詞の一部。「めでたし」は一語の形容詞（すばらしい）で、助動詞の希望「たし」ではない。希望の「たし」なら上は動詞の連用形になるが、「めで」だけでは意味が通らず、「めでたし」で一つの形容詞と考える。形が「～たし」でも、一語の形容詞か〈連用形＋たし〉かを見分ける。

---

**問17** 「ごとし」＝比況（～のようだ）。「ごとし」は体言、または連体形＋「の・が」に接続する。ここは「海の」（体言「海」＋「の」）に付いて「海のようにだ」。

---

**問18** 「む」＝意志（または適当・推量。ここは「どうしようか」と自分の行動を考える意志・意向）。「む」は未然形接続で、直前「せ」はサ変動詞「す」の未然形「せ」。

---

**問19** 推定・伝聞の「なり」。下二段動詞「聞こゆ」の終止形は「聞こゆ」で、それに付いているから終止形接続＝推定・伝聞と判断できる（断定なら体言・連体形に付く）。「(鳥の音が) 聞こえるようだ」の意。

---

**問20** 「ぬ」＝完了（～てしまった）。連用形接続で、下二段動詞「明く」の連用形「明け」に付く。「めり」＝推定・婉曲（～のように見える・～のようだ）。「めり」は終止形接続だが、ここは完了「ぬ」の終止形「ぬ」に付いて「明けぬめり（＝明けてしまったようだ）」となる。よって「めり」の直前「ぬ」は終止形。

---

**問21** 「まほし」＝希望（～したい）。「まほし」は未然形接続で、四段動詞「聞く」の未然形「聞か」に付く。「(物語を読ませて) 聞きたい」の意。

---

**問22** (1) 「言ふなり」の「なり」＝推定・伝聞（～のようだ・～と聞く。ここは人の声などによる推定・伝聞）。終止形接続で、四段動詞「言ふ」の終止形「言ふ」に付く。(2) 「御子なれば」の「なり」＝断定（～である）。体言「御子」に接続する（連体形にも付くが、ここは体言）。「なれ」は断定「なり」の已然形で、「ば」と結びつき「～なので」。(3) 決め手は接続。直前が終止形なら推定・伝聞の「なり」、直前が体言（や連体形）なら断定の「なり」。同じ「なり」でも上が何形かで意味が分かれる。

---

**問23** (1) 「(子どもが) 十歳ほどになってしまったので」。 (2) 「(都には) 雪が降っているだろう (今ごろ降っているにちがいない)」。 (3) 「片時も住むことはできそうにない (とても住めまい)」。 (4) 「海のようにだ」。

---

**問24** まず傍線部の助動詞の「直前の語が何形か (未然形・連用形・終止形・体言や連体形のどれか)」を確認し、その接続に対応するグループの中から、文脈に合う意味の助動詞を選ぶ、という手順で見分ける。  
(=接続→候補をしぼる→意味で確定、の順。)

---